

生活支援技術Ⅱ

担当教員 西島 衛治、馬場 敏彰

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

[授業の目的・ねらい]・自立に向けた生活空間としての居住環境の整備にかかわって、安全で快適な環境の整備について学ぶ。

[授業全体の内容の概要]・居住環境の整備は、介護を必要とする者にとって安全で快適であることがすべての場面で整備されることを理解する。

【授業の展開計画】

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全で快適な居住環境の確保に必要な視点と方法を身につけ、施設・在宅における環境整備を他職種とも協働して取り組むことのできる態度を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 居住環境整備の意義と目的（馬場）
2. 生活空間と介護①（居場所とアイデンティティ、生活の場）（馬場）
3. 生活空間と介護②（すまい、住み慣れた地域での生活の保障）（馬場）
4. 居住環境のアセスメント①（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
5. 居住環境のアセスメント②（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
6. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫①（快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成等）（西島）
7. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫②（プライバシーの確保と交流の促進、安全性への配慮、その他）（西島）
8. 安全で心地よい生活の場づくり①（住宅改修、住宅のバリアフリー化）（西島）
9. 安全で心地よい生活の場づくり②（ユニバーサルデザイン、その他）（西島）
10. 施設等での集住の場合の工夫と留意点①（ユニットケア、居室の個室化）（西島）
11. 施設等での集住の場合の工夫と留意点②（なじみの生活空間づくり、その他）（西島）
12. 居住環境整備と生活支援技術①（事例検討①…施設における住環境の整備）（馬場）
13. 居住環境整備と生活支援技術②（事例検討②…在宅における住環境の整備）（馬場）
14. 他の職種の役割と協働（馬場）
15. 学期末振り返り（馬場）

【履修上の注意事項】

必ず、予習と復習を行う。学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【評価方法】

[単位認定の方法及び基準]

- 1) 期末試験70%
- 2) 予習・復習の自主的学習態度の確認20%
- 3) レポートなどの提出物5%
- 4) 授業態度（授業に適する取り組み姿勢等）5%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規 2015年

【参考文献】

福祉住環境コーディネーター2級、東京商工会議所、高齢者・障害者を配慮した建築設計チェックリストと実施例、理工図書、ユニバーサル・バリアフリー検定3級、一般社団法人 日本ユニバーサル・バリアフリー協会